

<ミツキ先生の「weekly/monthly」はホームページに掲載しています>

ミツキ先生の Weekly/Monthly No86. (6/29)

□石川塾のあれこれ 115



石川塾の看板が新しくなりました♡

いくつかのデザイン案の中から、2パターン採用♡
石川塾の看板メニュー「読む・書く」「個別指導」
が強調されたかわいらしいデザイン♡

この看板を見て、石川塾に行ってみたいな♪♪
と思ってくれる方に繋がりますように…

町田河合塾前の電柱に2か所設置されています。
そばを通るとき、ぜひ眺めてみてください。

☆生徒募集中☆ご兄妹、ご近所のお友達ご紹介ください。紹介者には謝礼があります。

□読書の時間② 『続々・しごとば』 作・絵：鈴木 のりたけ ブロンズ新社



『続々・しごとば』/消防隊員、米農家、僧侶、女優、新聞記者、客船船長、大工、
看護師、教師、失敗

絵本作家の鈴木のりたけさんは、一橋大学社会学部卒業後 JR 東海
勤務、グラフィックデザイナーを経て絵本作家になった経歴の持ち主。
小学生のころは弁護士を夢んでいたそう。さまざまな職業を取材し、
仕事の現場や使っている道具、仕事の流れなどを圧巻のイラストで紹介
する絵本。いろいろな仕掛けを見つけるのも楽しい。興味を持てる仕
事にぜひ出会ってほしい。シリーズ全6巻の詳細をご紹介します。
今回はシリーズ3作目『続々・しごとば』から1つご紹介！！

●米農家

<しごと紹介>

わたしたちが毎日のように食べている、おいしいお米をつくっているのが、米農家です。種もみから苗を育て、
田んぼに植えて稲に穂がみのるまで、毎日休むことなく、お米を大事に育てていきます。天気の変化や、育
ち具合を見て、稲に合った世話をします。効率よくしごとを進めるため、コンバインやトラクターなどの大型機
械を、うまく扱う技術も必要です。(原文のまま)

<どうぐ>

育苗箱…田植え前の苗を育てる箱。 田植え機…自動で苗を植える機械。同時に肥料もまける。

パレット…重たいものを、フォークリフトではこぶときに使う土台。 コンバイン…稲を刈りとり、よぶんな部
分をとりぞいで、もみだけにする機械。 田植えの木わく…昔は、木わくをころがした跡を目印に田植え
をした。今は機械で植えるのがほとんど。 ※イラストと説明文で紹介

<絹ごし豆腐ができるまで>

1. 4月、お米づくりのスタート。種もみを塩水につけて洗い、浮いてきた種もみはとりのぞく。 2. 育苗箱に
土をもり、種まき機で種をまく。シートをかぶせて、ヒーターで保温する。 3. 芽が出たらビニールハウスにう
つし、温度や水を調節する。 4. 苗が育つまでの間、モグラなどが穴をあけたあぜを直し、田んぼの土をた
がやす。 5. 5月、りっぱな苗が育つ。いよいよ田植え。 6. 田植え機で苗を植える。 7. 数日後、田植え
が終了。 8. 稲が育つまでの4か月間、天候や育ち具合を見ながら、こまめに手入れをする。 9. 9月、田
んぼは黄金色。稲にたくさんの穂がみのる。 10. コンバインで稲刈り。収かくしたもみをコンテナへ。 11.
もみを乾燥機で乾かしてから、もみタンクにうつし、もみすり機でもみがらを外して玄米にする。選別機を通し
て袋づめをすれば、お米のできあがり。 ※イラストと説明文で紹介